

# 保姆養成に關する意見

愛育研究所教養部

森

脇

要

保姆の現状について。保育關係者からも保姆自身からも多くの不滿がのべられて來た。例へば保健的な知識が足りないとか、科學的知識が足りないとか、母親に對して權威がないとか、自信がないとか言はれる。そしてそれらの原因は直接的であれ、間接的であれ保姆養成の機關につながるものとして、保姆養成制度改革意見が色々述べられる所以がこゝにある。たしかに保姆は誰よりも熱心であり、献身的であるが、たしかに能力は足りない。これは取扱ふ對象が幼児と云ふ人間形成に於ける大切な時期であり、その扱ひ方が公式化されてゐず、多くが保育者自身の創意に期待されると云ふ。保姆の仕事の客觀的な因襲性に依るが、それと相關聯して、これに應ずるものとしての養成機關の内容の貧弱、期間の短期等にその原因が求められる。保姆は日常の困難を勇敢に戰つてみるが力足りないで多くのエネルギーが浪費されてゐるのを見てゐると彼女達にもう少しく實力を、問題を解決する實力を充分につけたいと切に考へる。

現在、保育界の指導者と考へられる人々を指折つて考へて見てほしい、そして、それ等の人々の間で幾人が保姆學校出

身者で占められてゐるか。三十パーセントにはなるまいと思はれる。然もこの三十パーセントも、もう少しよく見れば、何かの再教育の機關で勉強したとか、専門學校の中退であるとかの人々を含んでをり、純粹に保姆學校の出身者で、保育界の指導的地位に登つてゐるものは十五パーセントにみたないであらう。これ等の事實は現在の保姆養成機關の缺點をはつきり示して居る。

日本に大體四十位の保姆養成機關があるがその中に二つだけが官立で他は全部私立である。私立の中に二三、官立のよりもよいと思はれるものもあるが、併し、多くは非常に恵まれない状態にある。年限も一ケ年が殆んど大部分で二年制度のものも非常に少ない。而もこの中に、學校とは名のみで講習會式のものも相當に多い。

○ 保姆の上述の缺陷をおぎなふために、保健、自然科學の講義を増加して居る保姆養成機關もあるが、私にはこうしたやり方は爲さぬに優る程度にすぎず、この伸びない保姆さんをぐんぐん伸ばす方法は、もつと保姆にゆつくり勉強させる。

問題を根本的に考へる實力を養成させるより他にないと考へてゐる。一ヶ年と云ふ短かい期間に、保母の持つべき多方面な智識を興へようとするために、あれも、これも、既成品の智識をばら／＼に背面にされるのである。責任感ばかり、いやに多く持たせて、それを果たす頭と手を興へないのである。

多くの人は保母養成機關を二ヶ年に延長しやうといふ事に見解の一致を見てゐる様である。しかし私はどうしても三ヶ年の専門學校にしなければいけないと思つてゐる。

私がこゝろいふ意見を言ふと、一ヶ年で卒業出来るから保母學校に行くので、三年も行くのなら他の學校に行きますよと、或る保母は言ふ。そうであらう。だから保母學校は三年にしなければならぬのである。一ヶ年で卒業出来るから保母學校に行くといふ様な比較的安易な氣持の人ばかり集る。打ち込んで勉強しやうといふ人は始めから來ない。間違つて來ても失望して再び他の學校に行つてしまふ。

私は確信する。若し誰かが三ヶ年の保育専門學校を設立したら、有爲な女性が、たしかに集ると思ふ。

三年の専門學校を出ても保母、一年の保母學校を出ても保母、月給もそう違はないでは馬鹿／＼しくて誰が保母になる爲に三年も學校に行きますかと云ふかも知れない。待ち給へ。人間はそう巧利的にばかり動かないものだ。

保母を何時も車の兩輪の様考へられるものは保健婦である。此の保健婦や看護婦養成機關がどうなつてゐるか視て見

よう。

看護婦と言へば、國民學校を出て、一年か二年講習を受けてなるものだといふのが一般の常識であつた時に、實に思ひ切つた英斷をやつてのけたところがある。聖ロカ女子専門學校がそれである。この學校は看護婦を作るのに、女學校を出て前もその後三年なり四年なり教育しやうと云ふのである。

看護婦は國民學校卒業後一二年の勉強で事足りると考へてゐた時代に、この英斷は誠に頭が下がる。聖ロカ女子専門學校を出ても看護婦である。國民學校卒業後一二年の講習を受けて來ても看護婦であつた。給料もそれ程違はず、社會的立場もそれ程よくなかつた。然し實力は何時かは、ものを言つて來るものである。卒業生は随分苦勞した様だ。然し彼女等が日本の一般の衛生の状態は勿論看護婦や保健婦の社會的地位向上に、つくした役割は量り知れないものがある。既に保健婦の技官が厚生省に居る。

○

保母の待遇は悪い。社會的地位は低い。これを高めなくしては、優秀な人は保母にならないと言はれる。保母學校に來ないと云はれる原因は結果である。結果はまた原因となる。これは循環である。どこからか改革が行なはれねばならぬ。

三年制度の保育専門學校を作れ。これが改革の第一歩である。これを始めなくしては、よい保育、よい保母は望めない、誰がこの仕事を始めるであらうか。

随分暴論を吐く奴だと思ふかも知れない。然し私は何故保

婦學校が一年制や二年制でなければならぬのかと不思議で不思議でならない。GHQの斡旋で日赤の看護婦養成所が女學校卒業後三ヶ年勉強する模範看護婦學校として聖ロカ女子専門學校と一緒に日赤の中央産院で勉強を始めて居る。看護婦や保健婦は専門學校の出身者がその指導権をとつてゆくのである。

國民學校の訓導の養成機關である師範學校はどうか。中等學校卒業後三ヶ年の専門學校である。國民學校の教育は中等學校の教育と同様に専門學校の卒業生である。

國民學校の訓導が専門學校出身者でなければならぬのに、何故幼児教育の擔當者が一ヶ年の教育でよいのか。保姆と、車の兩輪と何時も言はれる保健婦は専門學校出身者である。一輪はどん／＼早く走り出したのに、もう一輪はのろ／＼廻つてゐるではないか。

全てが高い教養を與へられてはり切つて主張して居る時に、保姆だけが何時までも同じ状態で止つて居てよいのであらうか。

保健婦や看護婦の養成に、大きな指導的一石を投じた聖ロカ女子専門學校のやうな大きな仕事を日本の幼児達のためにして呉れる人はゐないのであらうか。誰がこの一石を投ずるであらうか。

### 小問答『とんでもない』

『民主々義教育では、喧嘩は一切嚴禁でしようね。』

『とんでもない。』

『へえ。やつぱりさせますか。』

『させるといふ譯じやありませんが、子どもですもの喧嘩をしましよう。』

『しかし、非民主的ですね。』

『必ずしもそうではありません。自分を主張することなしに、民主主義はありませんよ。子どもの喧嘩はつまり互の主張のぶつかりでしよう。』

『それでいふでしようかしら。』

『いゝも悪いもない。そうして、眞の民主々義生活に進んでゆけばいゝのです。』

『どんな喧嘩でも。』

『それは研究を要しますね。しかし、假りにどんな喧嘩でも、そのさばき方によつて、正しい民主的生活に指導できます。つまり、喧嘩といふ率直な生活を、いゝ教育の機會にする譯です。』

『教育の機會に……。』

『原始人に初めから立派な民主的生活は出來ないように、幼い子どもにも。』

『どんなにさばきますか。』

『大切なのはそこです。その時々いろいろの場合がありましようが、つまりは、民主的にさばくのです。公平に、合理的に、自分も主張するが、人も尊敬させるように。』

『なるほど。』